

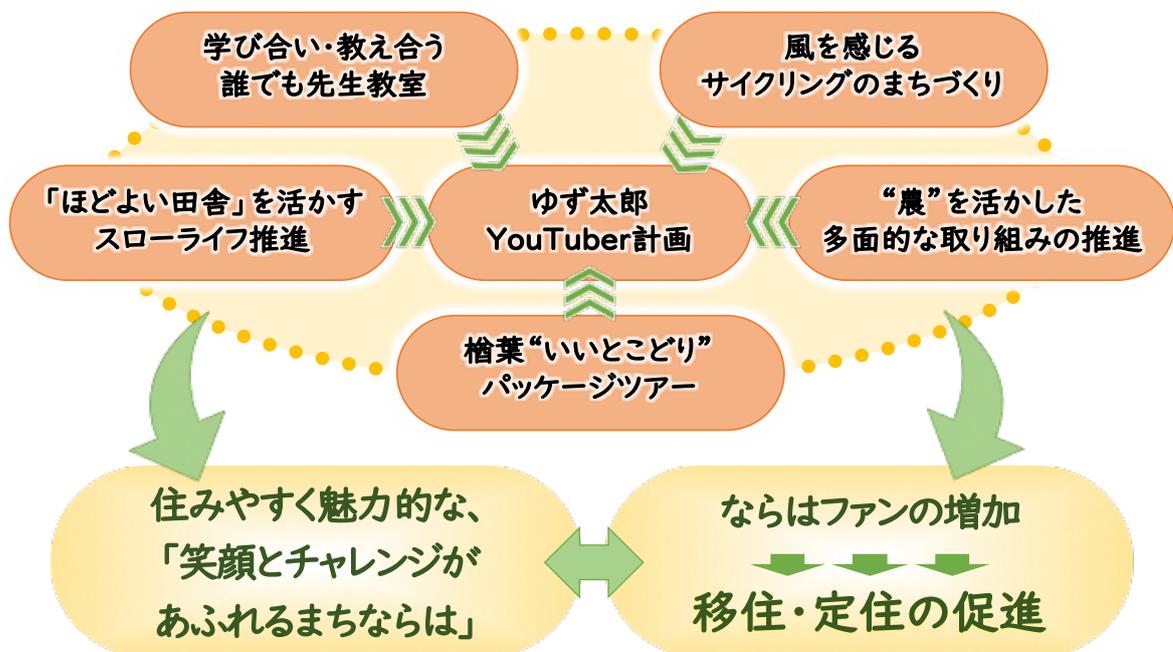
4. ならはチャレンジプロジェクト

ならはチャレンジプロジェクトとは

本計画では、今後、町が特に重点的に取り組む6つのプロジェクトを、「ならはチャレンジプロジェクト」として設定します。

これまで培ってきたまちの良さ、長所をより一層伸ばし、住みやすく魅力的な、「笑顔とチャレンジがあふれるまちならは」（まちの将来像）を目指します。また、そうした取り組みを積極的にPRすることで、ファンを増やし、訪れてみよう、住んでみようという移住・定住の促進につなげます。

なお、「ならはチャレンジプロジェクト」に含まれる具体的な事業等は、施策の分野別に整理した分野別基本計画（第3章）でも、それぞれの分野に含まれています。それらの事業を6つのテーマを設けて分野横断的にプロジェクト化することにより、幅広い関係者が連携・協調して取り組みを推進し、より良い成果を挙げることにつながります。



ならはチャレンジプロジェクトの全体像



プロジェクト1

学び合い・教え合う 誰でも先生教室

まちの子どもたちが健やかに成長する上では、新たな知識を学ぶことの楽しさを実感し、より一層の好奇心・知識欲を育みながら暮らしていくことが大切です。このため、子どもたちがさまざまな事柄を多くの人々から学ぶ機会を創り出すとともに、単に教わるだけでなく自ら教える機会も設けて、学び合い教え合う環境づくりを推進します。

例えば、小学生がこども園の園児に、中学生が小学生に教えるなど、子ども同士が教え合ったり、町内の文化団体や事業者など、さらには町外からの最先端の研究者・企業人などの町内外の大人が子どもたちに教えたり、さらには大人も子どもから学んだりというように、学び合い・教え合いの機会を創り出します。また、メンター制度を導入し、いわゆる「勉強」だけでなく、スポーツなどの課外活動、就職・進学など、子どもの毎日の生活と将来を共に考え、成長を支える仕組みづくりに取り組みます。さらには、移動式の図書室や書店の誘致などを通じて、本に親しむ多様な環境づくりを推進していきます。

これらを通じて、子どもたちの学力向上や心の成長を促すと同時に、さまざまな人同士の交流を深めます。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ 同学年の子ども同士はもちろん、学年を超えた子ども同士の教え合い
 - 小学生→こども園児
 - 中学生→小学生
 - 高校生、大学生（帰省中に）→中学生
- ◆ 町内外のさまざまな立場の大人からの学び
 - 町内各文化団体からの学び
 - 多世代交流によるお年寄りからの学び
 - 地元農家・企業等からの地域産業に関する学び
 - 最先端の研究者、企業人など、町外の人々からの学び
- ◆ スポーツ、就職・進学に関する相談など、子どもの将来を共に考えるメンター制度の導入
- ◆ 本に親しむ多様な環境づくりの推進





プロジェクト2

「ほどよい田舎」を活かすスローライフ推進

檜葉町は、決して都会ではありませんが、常磐自動車道や国道6号、JR常磐線など交通の便には恵まれており、また震災後にできた「笑ふるタウンならは」に「ここなら笑店街」がオープンするなど、復興とともに生活環境の利便性も向上してきました。

一方、最近では、新型コロナウイルスの感染拡大により、テレワークなどが急速に進み、また従業員の副業・兼業を認める企業が増えるなど、社会全体として多様な働き方を推進する気運が高まっています。このような社会情勢から、まちの豊かな自然、充実したスポーツ施設などを活かした「スローライフ」の推進に取り組みます。

例えば、町内事業者における副業・兼業などの推進や、テレワークを容易にするICT（情報通信技術）環境の整備などを通じて、多様で柔軟な働き方を後押ししていきます。同時に、心豊かな暮らしを営むことができるよう、スポーツをはじめとするレクリエーション活動などで余暇を楽しむスポットづくりや、家庭菜園や副業としての農業などを推進します。さらに、これらを通じて、のんびりと「ほどよい田舎」を楽しめるまちとしてPRし、まちの魅力を情報発信していきます。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ 多様で柔軟な働き方の推進
- ◆ テレワーク向け住宅（インターネット環境、ワークスペース等）の整備推進
- ◆ 「ふるさとテレワーク」の推進
- ◆ 既存公共施設を利用したテレワークセンターの整備
- ◆ 余暇を楽しむスポットの発掘・創造
 - 木戸川・木戸ダムを活用した水上スポーツ、フィッシング等
 - ならはスカイアリーナ等を活用したスポーツ、フィットネス
 - キャンプ場でのグランピング
- ◆ 家庭菜園や副業としての農業の推進



プロジェクト3

檜葉 “いいとこどり” パッケージツアー

これまでの檜葉町は、さまざまな良いところ、観光スポットなどがありながら、それらが町内各所に点在しており、面的なつながりが薄いという弱点を持っていました。

この弱点を打破し、まちの魅力をより一層際立たせるため、檜葉町にある多くの魅力的な資源を組み合わせたモデルコースを設定し、「いいところ」をふんだんに盛り込んだ“いいとこどり”パッケージツアーを展開します。

そのためには、すでにある魅力だけでなく、新たにさまざまな体験ができる“体験型”の観光コンテンツを創り出し、それを教えるインストラクターなどの人材育成も必要です。その上で、ウォーキングやハイキング、サイクリングなどで町内各所を回るモデルコースを設定し、まちを訪れた人々がこのまちの良さを知り尽くすことのできるツアーづくりを行います。また、モデルコースを通るツアー客には町民が必ず手を振るなどのおもてなしを通じて、このまちの温かさを感じていただいたり、宿泊回数券やポイント制、スタンプラリーなどの仕組みを検討し、来訪者に「また来よう」と思ってもらえるまちを目指します。

これらを通じて、檜葉町を丸ごと楽しみ、繰り返しまちを訪れる交流人口の拡大を図り、将来的な移住・定住につなげます。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ 魅力的な“体験型”観光コンテンツの発掘・創造、インストラクター等の人材育成
 - 木戸川・木戸ダムを活用した水上スポーツ、フィッシング等
 - ならはスカイアリーナ等を活用したスポーツ、フィットネス
 - キャンプ場でのグランピング
 - 海水浴場、サーフィン
 - 観光としての農業
- ◆ “まちを知り尽くす”モデルコースの設定
 - 歩道付きウォーキングロードの整備
 - 浜街道等を活用したサイクリングロードの整備
- ◆ 繰り返し訪れたいくなる“仕掛け”の設定
 - コース沿道の町民が「必ず手を振る」おもてなし
 - 宿泊回数券、ツアーポイント制度
 - チェックポイントを設定したスタンプラリー制
 - ふるさと納税返礼品としてのツアー





プロジェクト4

風を感じるサイクリングのまちづくり

サイクリングは、競技スポーツや趣味として楽しんでいる方が多い一方で、比較的簡便な移動手段として幅広い年代に親しまれています。また、楽しみながらサイクリングを続けることは、健康づくりにも役立ちます。

檜葉町内はもとより近隣市町村と連携してサイクリングコースを設定・整備するなど、サイクリングをより楽しむことのできるコースづくりに取り組みます。また、レンタサイクル・シェアサイクルの導入など、気軽に自転車を使うことのできる環境づくりを行います。さらに、サイクリングが楽しめるイベントなどの開催を通じて、サイクリングが楽しめるまちとしてPRしていきます。

このように、サイクリングをキーワードにしたまちづくりを推進することで、多くの来訪者をまちに呼び込みます。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ サイクリングコースの設定・整備
 - 近隣市町村と連携したサイクリングコースの設定・整備
 - 子ども向けストライダー^{※1}・BMX^{※2}コースの設置
- ◆ サイクリングしやすい環境づくり
 - サイクリングターミナルの機能充実（レンタサイクル、シェアサイクルの導入等）
 - 町内各所への簡易自転車置き場配置
 - サイクルトレイン（自転車をそのまま持ち込める列車）の運行誘致
- ◆ サイクリングが楽しめるイベントの開催
 - オリエンテーリングコースを活用したサイクル・オリエンテーション
 - サイクル・ロゲイニング^{※3}
 - ツール・ド・浜通り
- ◆ サイクリングが楽しめるまちとしてのPR
 - サイクリング関連団体との連携による広報媒体の活用



※1) ペダルがなく足で地面を蹴って進む子ども用バイク

※2) 小型の自転車でスピードやアクロバティックな技を競う競技

※3) 制限時間内にチームでチェックポイントを巡り、獲得した得点を競うゲーム



プロジェクト5

“農”を活かした多面的な取り組みの推進

檜葉町では、従来から農業がまちの基幹産業のひとつとなっていました。このため、震災後は、その復興に全力で取り組んでおり、今後もその振興策は強力に推し進めていきますが、加えて、これを新たな魅力として活用します。

例えば、農業体験のできる農園や観光農園、さらには震災前から実施していた木戸川のサケ釣り、アユ釣りなど、“農”を活かした観光コンテンツづくりを目指します。また、農業体験などを通じて食について学ぶ食育、地元の特産品を使った商品開発を行うキャリア教育など、“農”を活かした教育も展開します。さらに、福祉分野と“農”との連携、生きがいや健康づくりとしての“農”の推進なども取り組みます。

このように、“農”を活かした多面的な取り組みを展開することで、シゴト（生業）としての農業だけではなく、“農”を推進し、その良さを幅広い分野で活かしていきます。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ “農”を活かした観光コンテンツの開発・推進
 - 農業体験農園・観光農園、農家民宿、農家レストラン、農産物オーナー制度など
 - 木戸川のサケ一本釣り、アユ等の溪流釣り
- ◆ “農”を活かした教育の展開
 - 農業体験などを通じた食育
 - 地元産品を使った商品開発などによるキャリア教育
- ◆ 福祉分野と“農”の連携
 - 福祉施設における“農”関連プログラムの導入
 - 農業法人と障がい者施設等の連携推進
- ◆ 生きがい・健康づくりとしての“農”の推進
 - 健康づくり農作業プログラムの開発・推進
 - 町民農園の整備等による家庭菜園の推進
- ◆ 家庭菜園等における農産物の販路等構築（マルシェ、道の駅など）



プロジェクト6

ゆず太郎 YouTuber 計画

ここまで述べてきた「ならはチャレンジプロジェクト」の各プロジェクトを連携させて、全体として移住・定住の促進につなげるために、まちのマスコットキャラクター「ゆず太郎」に YouTuber として活躍してもらいます。

ゆず太郎が、「ならはチャレンジプロジェクト」の各活動をはじめとするさまざまな活動にチャレンジし、その姿を YouTube を通じて発信します。

例えば、「学び合い教え合う 誰でも先生教室」プロジェクトの一環で子どもたちにゆず太郎が教えている姿や、サイクリングを楽しむゆず太郎などを、誰でも YouTube で見ることができるようになります。また、スポーツのまち檜葉には、著名スポーツ選手も来訪する機会がありますので、それらの選手と一緒にプレイするゆず太郎の姿も配信できるでしょう。さらには、農家の作業をお手伝いする姿で、まちの基幹産業である農業をアピールすることもできます。

YouTube で配信する動画は、子どもたちが ICT（情報通信技術）教育の一環で作成したり、町を訪れた方の協力を得て作成したりします。このように多くの方々に関わっていただきながら、ゆず太郎を YouTuber として育て、その姿を YouTube で発信することで、檜葉町の魅力と元気を発信します。

〈具体的な取り組み〉

- ◆ さまざまな体験をする「ゆず太郎」の姿を YouTube で配信
- ◆ ならはチャレンジプロジェクトによるさまざまな活動
 - ゆず太郎が教える教室
 - スローライフを楽しむゆず太郎
 - パッケージツアーを楽しむゆず太郎
 - サイクリングするゆず太郎
 - 家庭菜園で収穫するゆず太郎 など
- ◆ 著名スポーツ選手と一緒にプレイ
- ◆ 農家さんとともにサツマイモ・米の栽培・収穫 など
- ◆ 動画作成も、さまざまな人が参画
 - 子どもの ICT（情報通信技術）教育の一環で YouTube 動画作成
 - 著名人がゆず太郎になる
 - 農業体験に来た農大生・農業高校生が動画制作